

遠軽 I C道の駅の整備について

平成27年度に発足した、(仮称)遠軽豊里 I C周辺施設基本計画検討協議会(現・遠軽 I C道の駅検討協議会(以下、検討協議会という。))を中心とする、道の駅的设计および今後の運営等の検討の進捗状況について、次のとおり説明いたします。

1 道の駅について

(1) 道の駅とは

「道の駅」は、安全で快適に道路を利用するための道路交通環境の提供、地域のにぎわい創出を目的とした施設で、「地域とともに作る個性豊かなにぎわいの場」を基本コンセプトにしている。

また、「道の駅」は3つの機能を備えており、24時間無料で利用できる駐車場、トイレなどの「休憩機能」、道路情報、観光情報、緊急医療情報などの「情報提供機能」、文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設で地域と交流を図る「地域連携機能」があり、駅ごとに地方の特色や個性を表現し、文化などの情報発信や様々なイベントを開催することで利用者が楽しめるサービスも提供している。

(2) 遠軽 I C道の駅とは

現在工事が進められている丸瀬布遠軽道路は、丸瀬布 I Cから豊里までの区間で、平成28年度には丸瀬布 I Cから瀬戸瀬 I Cまで約11kmが開通予定となっている。次の I Cとなる遠軽 I Cの開通予定は国土交通省からは発表されていないが、平成30年代の早い時期の開通が目指されている。

また、遠軽 I C道の駅は、丸瀬布・白滝に続く町内で3つ目の道の駅となり、I Cに隣接し、スキー場のロジック機能を兼ね備えた新たなスタイルで、年間を通して利用できること、利便性、話題性から多くの集客が期待され、「オホーツクの玄関口」としての「遠軽町」の“顔”となる場所になり、町内3つの道の駅が連携し、それぞれの魅力がより輝くような、地域の意向を反映した活力のある施設となるよう、検討を進めている。

(3) コンセプト「グレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅」

遠軽 I C に隣接したスキー場周辺の整備を進めるにあたり、地域の意向を反映した活力のある施設とするため、遠軽 I C道の駅検討協議会において設定したコンセプトであり、札幌・旭川方面から見るとオホーツク圏への玄関口となる立地特性を活かして、地域の個性を演出する道の駅づくりを進めることを表している。

また、このコンセプトのもと、地域外から活力を呼ぶゲートウェイ機能に重きを置きながら、スキー場とロジック機能、充実したトイレ機能、オホーツクの産品を網羅した物販・直売機能、地域の特色を出した飲食機能を柱として、道の駅整備を進めていきたいと考えている。

2 検討協議会について

(1) 検討協議会とは

旭川紋別自動車道の「遠軽IC」の設置予定に伴い、同ICに隣接するロックバレースキー場と一体化した道の駅の整備に向けた基本計画案の策定を行う組織で、道の駅の運営にも関わりが深いことが予想される様々な背景を有する町の機関を代表する方及び学識者で構成されている。

(2) 検討協議会の経過

回数	開催日・会場	概要
第1回	H27.6.2 遠軽町福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> 検討協議会の発足にあたって、ロックバレースキー場と一体化した道の駅の整備に向けた基本計画の策定を行うことについて確認。 オホーツクの玄関口であることを念頭に、きれいなトイレ、広い駐車場、防災拠点、ゲレンデの夏場利用、販売、周辺地域との関係について協議。
第2回	H27.7.6 ロックバレースキー場	<ul style="list-style-type: none"> 施設のイメージや防災拠点としての位置づけについて協議。 オホーツクの海産物の販売、景観やアクティビティのアイディア、オホーツク全域の情報発信について協議。
第3回	H27.8.25 ロックバレースキー場	<ul style="list-style-type: none"> 「ゲレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅」をコンセプトとして提案し、スキー場併設であること、食や文化を守り・育て・続けること、情報・交通・防災の拠点とする、3つの考え方について協議。 夏場のリフトの稼働やレストランの必要性、オホーツク全体の情報を発信することについて協議。 他の事例を踏まえて、遊び場や電気自動車の充電設備などについて協議。
第4回	H27.10.23 遠軽町福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> 青年会議所が町内の小中高生を対象に実施した「道の駅アイディア募集コンテスト」のアンケート結果について報告。スイーツの提供や季節ごとのイベントの実施、スキー場の傾斜を利用したアトラクションへの興味が大きい。 前回、提案したコンセプトの、3つの考え方について、より掘り下げて協議。 「考える会」は、運営に携わるであろう方々などで、専門部会に分けて具体的に検討を進める組織であり、協議会に出席している委員の組織の方々にも是非参加していただくよう依頼。
第5回	H27.12.3 遠軽町保健福祉総合センター	<ul style="list-style-type: none"> 地域の意向を反映した活力のある施設となるよう、スキー場周辺整備についてコンセプトや基本方針を検討し、とりまとめたものを提言書として提出。 考える会は「産業・食部会」「体験部会」「情報発信部会」の3つの部会で構成され、今後、町民も含めて詳細な部分を検討する組織となる旨を説明。
第6回	H28.4.28 遠軽町役場	<ul style="list-style-type: none"> スキーヤーにとって幸せな施設であるべきであり、食堂機能は2階に設置し、安くて食べやすいもの（ラーメン、カレー等）の提供を検討。 仮にレストランとすれば、食事のために来てくれるようなものにしたい。 オホーツクの観光情報を網羅できるようにし、コンシェルジュの設置や道路情報など防災機能の充実について協議。 トイレが少ないと大型バスが寄ってくれないという意見が多数。
第7回	H28.6.17 遠軽町役場	<ul style="list-style-type: none"> 開発局からIC名称が「遠軽IC」となることが発表されたことと、基本設計業務が完了したことから、名称を「遠軽IC道の駅検討協議会」と改めた。 第6回検討協議会での意見を踏まえ、幹事会で協議を重ねた事項を盛り込んだ図面を提示し理解を得た。 湾曲した形状、トイレ機能の充実による集客、フードコートを中心に考えた食スペースについて提案し、理解を得た。 施設の実施設計への反映に影響を与える産業・食部会を先行して開催する。 体験部会については参集範囲を検討し、追って募集をかけ、開催していく。 情報発信部会については、発足時期や参集範囲を今後検討していく。

3 遠軽IC道の駅を考える会について

(1) 考える会とは

遠軽IC道の駅の運営を含めて、専門性を持った部会に分かれて、実務者レベルで具体的に検討することを目的とした組織の総称。(※以下「考える会」という。)

また、考える会は、スキー場の利点を活かしたアクティビティや風景づくりなどを検討する「体験部会」、周辺地域の情報提供などを検討する「情報発信部会」、野菜・物産等の販売や食の提供などを検討する「産業・食部会」の3部会で構成され、アドバイザーの監修のもと、それぞれで検討された内容を幹事会が取りまとめ、部会間や外部との連絡調整を図るとともに、上部組織の検討協議会へ確認・提案をしていく。

(2) 体験部会

スキー場の夏場利用を軸に、景観の整備や各種イベント等の企画・立案について、観光協会を中心として、各種関係機関と連携を図りながら検討を行う組織。

(3) 情報発信部会

「遠軽、オホーツク」の観光情報を中心に、道路情報や防災情報など、必要に応じて各組織や機関と連携を図りながら、情報提供のレベルと範囲、方法などの検討を行う組織。

(4) 産業・食部会

食や文化を守り・育て・続ける、地域を再発見できる空間づくりを目指し、野菜・特産品などの販売に関する組織・ルール・方法、レストラン・フードコート・軽食などの食を提供する形式・運営・ルール、市街地飲食店との連携や住み分け、商品開発などを検討する組織で、参加者は町広報及び町HPで募集し、他の部会に先がけて協議を進めている。

(5) 産業・食部会の経過

回数	開催日・会場	概要
第1回	H28.7.7 遠軽町役場	<ul style="list-style-type: none">・計12名の参加者。(当日欠席者、代理出席者あり)・そもそも道の駅とは何か、遠軽IC道の駅のコンセプト等について、検討協議会の経過を交えて、図面等の資料で説明。・参加者それぞれの道の駅に対する想いの聞き取りを行った。主な意見としては、町民に愛される施設にしたい、安心・安全で「ここにしかない」食べ物を提供したい、子ども・お年寄り・障害者でも利用しやすい施設にしたい、スタンプを押して終わりではなく色々な魅力のある施設にしたい、などがあつた。
第2回	H28.7.27 遠軽町役場	<ul style="list-style-type: none">・第1回において、商売の観点からトイレは奥にあつた方がよいという意見があつたが、あくまでトイレを目玉として集客をはかり、その客をどうやって販売・食のゾーンに引き込むのかを、産業・食部会で検討いただくこととした。・第1回での意見を踏まえて、仮にフードコートとした場合に考えられる品目をあげた中で、ブースごとにある程度ジャンル分けした上での募集方法などについて提案したが、地元産食材等の縛りがあることを考えると、ジャンルの指定はせずに、出店者の自由な発想での募集が良いのではという意見があつた。また、参加者に食の提供形態は「フードコート」ということの賛同を得た。・出店・出品にあつた基本ルールについて提案。詳細な数字については〇〇としており、今後、協議を重ねていく中で、具体的に決めていきたいと考えているが、売上の推計を算出し、根拠のある金額を設定してほしいという意見があつた。

4 完成までのスケジュール（仮）

事業内容／年度	H27	H28	H29	H30	H31	H32
用地買収・補償		←————→				
基本設計・実施設計	←————→					
建築・外構工事			◆-----◆			
現ロッシ解体工事			◆-----◆			

※1 年度とは、4月～翌年3月

※2 上記は仮のスケジュールであり、点線部は各関係機関との協議の中で変動する。

5 整備予定エリア



6 現況写真

①から撮影



②から撮影



③から撮影



【トイレの主な設備】
女性トイレ
 ・15器(うち和式2器)・洗面台5器
 ・パウダールーム・授乳室・更衣室
男性トイレ
 ・大5器・小10器・洗面台4器

直接ゲレンデに出られる
屋外階段

豊富なスペースの
物販・直売コーナー

オホーツクを網羅した
観光情報の提供

地元産食材を使った食べ物を提供すると
ともに、群集心理を刺激するフードコート。

高速道路等の情報を発信
する道路情報コーナー

ガラス張りの風除で見通しが良い

天気が良い時は屋外テラスで
気持ち良く食事・休憩できる。

【トイレの特徴】
 ・駐車場から近い
 ・大型観光バスの客も受入
 可能な便器数
 ・女性に優しくピーター確保
 ・24時間開放
 ・個室の壁にオホーツクの
 景色をプリント
 ・オストメイト対応の多目的トイレ

スキー客を受け止めるイメージで平場スペースも広く、特徴的でよりデザイン性が高い、地域に愛される施設とするため、湾曲型とする。

1階床面積： 805.52㎡
 2階床面積： 741.96㎡
 合 計： 1,547.48㎡



